

かながわ子ども教室

ニ ュ ー ス 第68号

「ねんりんピック長崎 2016」に参加して

NPO 法人かながわ子ども教室 小島啓三郎



厚生労働省、長崎県、長寿社会開発センターが主催するねんりんピック長崎（正式名称：第29回全国健康福祉ながさき大会）に参加いたしました。ねんりんピック参加としては昨年の山口に続き連続9回目となります。10月15日（土）から18日（火）の4日間、県内12市3町で開催されました。我々は長崎市にある長崎県立総合体育館で開かれた健康・福祉関連イベントの協賛イベントとして、体育館サブアリーナに出展し、15日、16日の両日参加いたしました。

参加者は「かながわ子ども教室」から11名、共同参加していただいた「きらめきライフ多摩」から3名の14名で、出展科目は海洋・電気と「きらめきライフ多摩」の水族館の3つです。

往路の航空便が大竹様のご努力にもかかわらず、夕方の便となってしまった関係で、14日は長崎中心街近くのホテル到着が午後9時近くになりましたが、ほとんどのメンバーが竹内俊晴様（以降竹内様とさせていただきます）の手配された美味しい店で軽く（？）一杯を楽しみました。

15日朝、路面電車約20分大橋電停で下車し、徒歩10分で会場の総合体育館に到着しました。我々の出展場所のサブアリーナは構内の分りにくい場所にあり、かつ、2階までの階段が結構きつい、エレベータは小さいのが1基しかないという状況、それでも、幼稚園児の集団をうまく誘導できたので、最初の1時間は66名の来客。でも、その後は1時間に30-40名しか集まらず、会場内を「水族館」のペットボトルと「チラシ」を持って勧誘に回りました。すると、大人からは「こういうイベントがあるのであれば子どもを連れてくるのだった」とか「サブアリーナってどう行けばいいの？」という反応。長崎県の準備・宣伝の不足を感じました。

結局、初日は286名という惨憺たる状況でした。ホテルに戻り、徒歩10分弱の卓袱（しっぽく）料理の「浜勝」に行き、長崎名物の日本料理、中華料理、オランダ料理ミックスの和華蘭（何と読むのかはお分かりですね）料理の味を楽しみました。さらに元気のある方は思案橋を越え、丸山でお酒を楽しみました。（すべて竹内様のアレンジです。）

16日は長寿社会開発センターのご紹介で、日本生命長崎支社から支社長を含め5名のメンバーがサポートに加わっていただきました。女性が2名入っていましたが、お二人とも、「私たち

には理解が難しい電気の教室に入ります」とのことで、立派に説明できるようになりました。その積極性には感服しました。

日曜日にもかかわらず、はじめの1時間はなんと11名、午後からは天気が悪くなるという予報だったので、先行きを懸念して、近くに来た、長崎県の担当者になんとかならないのかと尋ねると、メインアリーナで行われる「プリキュアショー」の記念写真撮影を2回、サブアリーナで行うのでそのときに集まるのではとのこと。12時過ぎに目の前に突然長蛇の列ができ、写真撮影が始まったので、その帰り際の親子を誘導することにより、その時間帯は157名を迎えることができました。



しかし、午後2時すぎの回は天候悪化を懸念したのか、帰りを急ぐ人が多く、それほど集まりにはなりませんでした。

午後4時過ぎからは、大竹代表が周りのブースの方を誘導し、そして視察に見えた長崎県の中村知事にも電気教室の説明を聞いていただきました（写真参照）。随行の方から、「わざわざ神奈川から来ていただいているのですね」との言葉もいただきました。

結局、この日は501名となり、2日間トータルで787名という今までのねりんピックの中では最低の実績となりました。

この原因は先に述べたサブアリーナの中という場所の問題が大きいとは思いますが、総合体育館全体でもそれほどお客が集まっていなかったことがさらに大きいと思われます。長崎市の中心街からやや離れていること、そして、ねりんピックの主会場は24KM離れた諫早市だったということ、そして、長崎市内では、ねりんピックが開かれていることのPRがほとんどされていなかったことがあげられると考えています。（これは日本生命の方のレポートにも書かれています。）

この日もホテルの近くの「バラモン食堂」で美味しい五島料理に舌鼓を打ちました。さらにカラオケも予約されており、竹内様のレパトリーの広さに感服しました。17日は朝から三菱グループ発祥の地ともいえる三菱重工業株式会社長崎造船所の史料館を訪問しました。この赤煉瓦の建物は、1898年7月三菱合資会社三菱造船所に併設の「木型場」として建設されたもので、長崎造船所に現存する最も古い工場建屋で、世界遺産「明治日本の産業革命遺産」（2015年登録）の構成施設の1つです。館内は13コーナーに分かれ、1857年に長崎造船所前身の長崎溶鉄所建設が着手されたときから現在まで900点を展示しています。



三菱発祥の地三菱重工長崎造船所資料館前 2016. 10. 17

日本最古の工作機械や海底調査用潜水器具の泳気鐘、日本初の国産蒸気タービンなど技術の進歩を物語る珍しい品々のほか写真等で長崎造船所の歴史的変遷を紹介しており、興味深いものでした。

午後からは、竹内様が自らハイエースを運転されて、長崎市内をご案内いただきました。まず、稲佐山で眺望を楽しみ、その後、浦上天主堂、平和公園、日本26聖人殉教地、諏訪神社、眼鏡橋、出島、大浦天主堂、グラバー園、海の森公園、女神大橋など市内の名所を効率よく廻り、丁寧に説明もしていただきました。

今回の長崎“遠征”（大竹代表の言葉を借用しました）は、ねんりんピック自体としては、不満の残るものでしたが、長崎に長くおられた竹内様のおかげで充実した“旅行”になりました。参加者一同感謝いたしております。

<かながわ子ども教室>（勝浦）

本年9月から11月までの活動でのトピックスを以下にご紹介します。

① 教室開催回数

この3ヶ月での開催回数は50回でした（9月:13回、10月:18回、11月:19回）。4月から11月までの通算で103回（昨年同期は通算92回）、年間144回（予定）と昨年（139回）に比べると若干ハイペースで進捗しています。11月には、正規授業での教室が、6回含まれています。

② ねんりんピック長崎・2016への参加（詳細は別途報告があります）

長崎県で開催された長崎ねんりんピック（長崎県立総合体育館サブアリーナ）に参加しました。当教室からは11名が参加し電気、海洋の2教室を展開し、来場者に簡単な説明の後実験をしてもらいました。昨年に引き続き「きらめきライフ多摩」からも同じブース内に参加（3名）していただき、水族館教室を実施していただきました。今年は10月15日、16日の2日間を予定通りに開催できました。来場者は2日間で787人（子ども:354人、大人:433人）と会場の立地の悪さなどもあり、例年になく低調なものでした。